

現行の健康保険証を残すことを求める声明

2023年10月17日

高知保険医協会

会長 伊藤 高

現行の健康保険証が2024年秋に廃止されようとしています。いわゆる「マイナ保険証」の利用、マイナンバーカードを保険証として利用できることがその理由とされていますが、私たちは以下の理由から、現行の健康保険証を残しておくことを求めます。

- ① そもそもマイナンバーカードの取得は任意とされているにもかかわらず、健康保険証と一体化することで事実上強制となっているため。
- ② 高齢者、認知症の方、障がい者等、マイナンバーカードの取得が困難な方、「マイナ保険証」としての利用ができない方の医療への受療権を侵害し、国民皆保険制度に反するものであるため。「資格確認書」の活用は手間とコストの面から非効率で、保険証を残すことが最も合理的である。
- ③ 「マイナ保険証」を利用した際に、保険資格について「該当なし」「無効」といった表示がされる、表示された窓口負担割合に誤りがあるといったトラブルが多く発生していることがわかっており、持参した健康保険証で確認するしかないことも多いため。ヒューマンエラーではなくシステムそのものの問題であることである可能性がある。
- ④ 「マイナ保険証」が災害時等にも便利だとの意見もあるが、実際の災害時に「マイナ保険証」で医療が受けられるかどうかは、実際には行われておらず、仮に問題が発生した場合に備えて、現行の健康保険証を残しておく必要があるため。

上記声明に別紙の団体、個人が賛同されています。